



「地域生活支援システム」開発の経緯と効果

東海村社会福祉協議会は、社協が提供するすべてのサービス利用者の情報を一元的に管理する「地域生活支援システム」を独自に開発し、4月から運用を始めました。従来は「地域福祉推進係」、「居宅介護サービスセンター」などの各セクションが独自に利用者記録を作っていましたが、それを統合し、長期間にわたって有効に活用することを目指しました。一人の利用者が過去にどのようなサービスを受けたか、担当者は誰だったかなどが瞬時に分かるので、サービスの質の向上や仕事の効率化に大きな効果が期待されています。

助成金を得て専門企業と連携

平成18年12月、開発の中心になるプロジェクトチームを各セクションから集まった6人の代表で結成し、月に1、2回のペースで議論を重ねてきました。開発に伴う経費には、社会福祉法人丸紅基金からの助成金などをあて、補助金などの公的な財源は一切使いませんでした。プログラムの開発は関彰商事株式会社情報システム部システムソリューション水戸グループに依頼し、プロジェクトチームの要望どおりのシステムを作ることができました。



メンバーが揃うと改善に向けた熱い議論がはじまる

社協に最適なシステムを構築

このプロジェクトはあるケース検討会の場で出た「各セクションの連携が必要だ」という反省から始まりました。連携を強化するには情報を共有する基盤が必要です。しかし、各セクションで記録の書式が違うので、そのまま共有するには問題がありました。また、長期に活用しサービス向上につなげるために、どのような形で記録を



プロジェクトチームメンバー

蓄積することが望ましいかなど、多くの検討課題がありました。既製のソフトも検討しましたが、必要十分な機能を備えた製品はありませんでした。各現場の声を十分に検討し、社協の業務に最適な情報管理の仕組みを新たに構築することになりました。

「温かい心」で有効活用

いよいよ運用が始まり、プロジェクトチームのメンバーは「支援の質の向上につながり、社協にも住民にもメリットがあると確信している」と胸を張ります。そして「データだけの冷たいシステムではダメ。データは直接ふれあって判断するための材料に過ぎないことを忘れず、心の通った温かいシステムとして使っていくことが大切です」と、有効活用に向けて気持ちを新たにしていました。



最新のデータ入力
が地域生活支援シ
ステムの要となる



“かけがえのない
一人ひとりの想いと行
動を紡ぐまちづくり”
が私たちの目標です

いばらきの社会福祉

Social Welfare of Ibaraki

発行者／社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

〒310-8586 水戸市千波町1918

電話 029(241)1133(代)

FAX 029(241)1434

ふくしネットワークいばらき

(<http://www.ibaraki-welfare.or.jp/>)

(E-mail ibashakyo@ibaraki-welfare.or.jp)



環境に配慮して再生紙と大豆油インキを使用しています。



携帯電話で読み取るだ
けで簡単に「ふくしネット
ワークいばらき」にア
クセスできます。